

平成 19 年 12 月 27 日

1・2号機廃棄物処理建屋内の低電導度廃液系収集ポンプ（B）室
における水漏れの調査結果について

東京電力株式会社
福島第二原子力発電所

1・2号機廃棄物処理建屋^{*1}地下2階の低電導度廃液系^{*2}収集ポンプ（B）室において、平成19年8月21日午前10時5分頃、床に水溜まりがあることを当社社員が確認しました。

この水は、定例の分解点検のため出入口弁を閉じた状態で行っていた当該ポンプ（B）本体より漏れており、同系統に併設されている運転中のポンプ（A）を停止したことにより止まりました。

漏れた水の量は約3リットル、放射エネルギーは約 1.5×10^4 ベクレルであることがわかりました。

なお、漏れた水は当該ポンプ（B）室（堰内）にとどまっており、拭き取りにより回収しております。

これによる外部への放射能の影響はありません。

[（平成19年8月22日お知らせ済み）](#)

調査の結果、以下のことがわかりました。

- ・ 当該ポンプ（B）を分解点検するため閉じていた循環弁^{*3}にシートパス（水漏れ）が確認されたこと。
- ・ 当該循環弁を分解点検したところ、流水により浸食されたあとが確認されたこと。
- ・ 当該循環弁は流量調整のため、半分程度開けた状態で長期間使用していたこと。

水が漏れた原因は、当該ポンプ（B）の循環弁が、流量調整のため半分程度開けた状態で長期間使用されていたことから流水により浸食され、ポンプ（B）の分解点検のため閉じていたもののシートパスが発生し、ポンプ（B）本体より漏れたものと推定しました。

対策として、以下のことを実施します。

- ・ 当該循環弁を新品に交換する。
- ・ 当該循環弁および類似の弁について、点検頻度の見直しを行う。
- ・ 当該ポンプおよび類似のポンプの分解点検においては、併設されているポンプの起動時に、循環弁のシートパスがないことを確認する。

以 上

* 1 : 廃棄物処理建屋

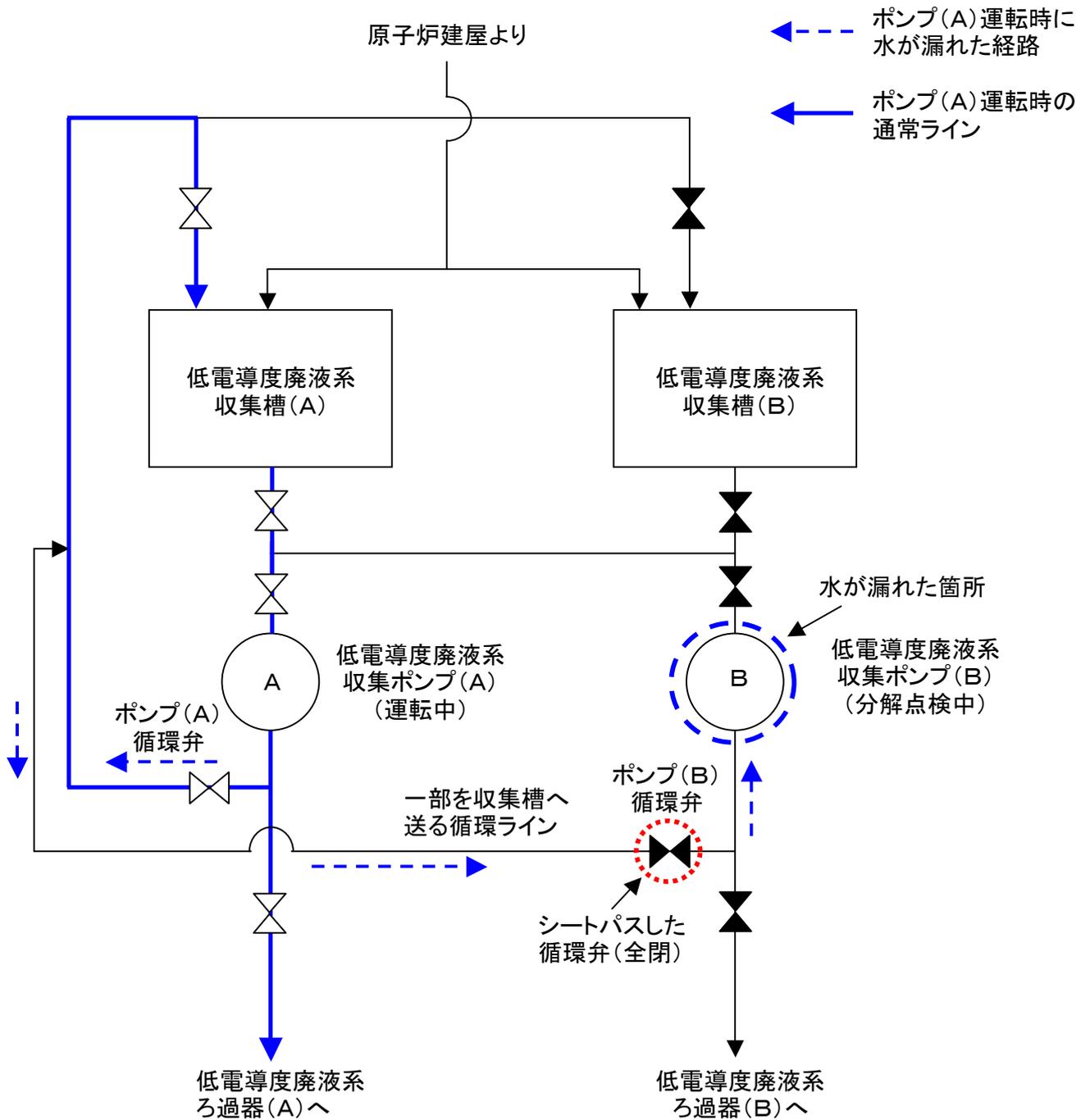
原子力発電所内で発生した液体および固体廃棄物等を処理する建屋。

* 2 : 低電導度廃液系

建屋内の機器からの排水等を再利用するために処理を行う設備。

* 3 : 循環弁

低電導度廃液系収集槽内の廃液の沈殿を防止するため、ポンプ出口から一部の液体を収集槽へ送り攪拌するための弁で、流量調整のため、半分程度開けた状態で使用している。



低電導度廃液系 概略系統図(収集ポンプ(A)運転中)